

企画建設常任委員会 所管事務調査報告書

新焼却処理施設候補地の決定について

〔調査期間〕 平成 28 年 12 月 8 日

〔調査内容〕

1. はじめに

焼却処理施設の最終候補地について、新焼却処理施設候補地検討委員会から意見書が提出されたことを受け、執行者より説明したい旨の要請があり、企画建設常任委員会で報告を受けた。

2. 候補地検討委員会での選定の経緯

(1) 第 1 回委員会 【平成 28 年 7 月 25 日開催】

可燃ごみの現状と課題、新焼却処理施設整備基本計画の概要、施設集約後のごみの受け入れ、今後のスケジュールについての説明

(2) 第 2 回委員会 【平成 28 年 8 月 29 日開催】

候補地選定の条件・考え方の説明の後、5 つの候補地を承認

No.	施設名	所在地	No.	施設名	所在地
1	大屋農村広場	西城町	2	旧大屋小学校	西城町
3	備北クリーンセンター	一木町	4	篠堂ストックヤード 1	川北町（西城町側）
5	篠堂ストックヤード 2	川北町（川北町側）			

(3) 第 3 回委員会 【平成 28 年 10 月 12 日開催】

5 候補地の現地確認と評価項目により、

第 1 候補地 備北クリーンセンター〔一木町〕

第 2 候補地 篠堂ストックヤード 2〔川北町（川北町側）〕 に絞り込み

(4) 第 4 回委員会 【平成 28 年 11 月 25 日開催】

2 候補地の意向を確認し、①評価項目における評価が高い、②地元が協議に応じる姿勢がある、③環境負荷が少ない等の意見を集約し、全会一致で、備北クリーンセンターを最終候補地に決定

(5) 意見書の提出 【平成 28 年 12 月 2 日】

庄原市新焼却処理施設候補地に関する意見書を市長に提出

3. 今後のスケジュール

平成 28 年 12 月下旬に、地元説明会を行い、地元協議を開始する

4. 委員会における主な質疑等

質疑 新たな施設の規模に合わせ、ごみを減量化するため、衣類の資源化に取り組むこととしているが、そういったことを含め、今後の予定をどのように市民に PR していくのか。

答弁 平成 29 年度から取り組むことについては、年が明けてから、広報誌等で広報していくこととしている。

質疑 現在の施設を稼働させた状態で、新たな施設を整備する必要があるが、現施設の近くに整備するのか。

答弁 市有地に整備することを前提条件としているため、追加買収をして、現施設の敷地を拡大し、整備することとしている。

企画建設常任委員会 所管事務調査報告書

有害鳥獣処理施設の設置計画について

〔調査期間〕 平成 28 年 12 月 8 日

〔調査内容〕

1. はじめに

執行者より、新たに取り組もうとする有害鳥獣処理施設の整備について説明したい旨の要請を受け、企画建設常任委員会において報告を受けた。

2. 有害鳥獣処理施設について（執行者説明）

（1）候補施設

道路網、公共上下水道等の利便性、周辺環境などを踏まえ「バイオエタノール実証実験棟」を候補施設とする。

（2）改修事業費

26,723 千円・・・工事請負費 12,289 千円、備品購入費 12,710 千円
設計委託料 988 千円、監理委託料 736 千円

3. 有害鳥獣処理施設の運営について

（1）処理数の予測

平成 27 年度の実績値より、平成 29 年度には有害鳥獣として 404 頭が捕獲され、さらに猟友会から 65 頭が提供される見込み

（2）施設の運営

市が整備し、民間事業者等に運営を委託する。シビエ販売による収入のみでは運営できないことから、事業経費を業務委託料として支出し、販売収入等は市の歳入とする計画

4. 今後のスケジュール

平成 29 年 9 月の施設稼働を目指し、実施主体の選定、施設の設計、整備工事等を進める。

5. 委員会における主な質疑等

〔質疑〕 公害問題は、完全にクリアできるのか。

〔答弁〕 保健所等の指導を受けながら整備し、グリストラップ等の処理設備で残渣を取り除いて下水に流すため、現状では公害の心配はない。

〔質疑〕 販売先の用途はついているのか。

〔答弁〕 道の駅や京阪神周辺の業者等を想定しているが、具体的なところは検討していない。

〔質疑〕 高齢化が進み、狩猟者が減少することが考えられるが、推計どおりの捕獲頭数を維持できるのか。

〔答弁〕 5 年程度の推計をしているが、狩猟者数が大きく減少する推計にはなっていない。

〔質疑〕 近隣市町からの買い取りは考えているのか。

〔答弁〕 冷凍車を導入するように計画しており、考えられなくもないが、基本的には市内からの受け入れを考えている。